竹内つねお後援会

持続可能な美浜町を構想する会

会報第 3 号

沈みゆく美浜町の再生と発展へ

いまこそ町政大転換！

竹内つねお後援会主催の講演会・対話集会のご案内 どなたでも参加できます。	
2 月 26 日(日) 12:30-14:30 美浜町体育館 サブアリーナ	講演会「地域経済の再生に向けた地域企業の取組」 ■平沼辰雄(元中小企業家同友会全国協議会地球環境委員長) ■藤沢寿朗(元 INAX 取締役、(公財)名古屋産業科学研究所研究部副部長、愛知県資源循環推進センター・コーディネータ) ■萩原喜之(株式会社三河の里コミュニティパワー専務取締役) ■竹内つねお
3 月 5 日(日) 10:00-12:00 北方コミュニティセンター	北方区対話集会 ◆竹内つねお ◆コーディネータ:石田芳弘(元犬山市長、中部サスティナ政策塾顧問)
3 月 5 日(日) 13:00-15:00 河和観光センター	東部地区対話集会 ◆竹内つねお ◆コーディネータ:石田芳弘(元犬山市長、中部サスティナ政策塾顧問)
3 月 5 日(日) 16:00-18:00 野間公民館	西部地区対話集会 ◆竹内つねお ◆コーディネータ:石田芳弘(元犬山市長、中部サスティナ政策塾顧問)
3 月 19 日(日) 14:00-16:00 美浜町体育館 サブアリーナ	講演会・対話集会「美浜から愛知・日本を変える！」 ■北川正恭(元三重県知事、早稲田大学マニフェスト研究所顧問)) ■百瀬則子(中部 SDGs 推進センター副代表理事) ■飯尾　歩(ジャーナリスト) ■竹内つねお

竹内つねお後援会主催講演会（2 月 12 日）「いま、自治体の首長に求められること」（講演概要）

■石田芳弘（元犬山市長。元愛知県議。元衆議院議員。現中部サステナ政策塾顧問など）

6 年前から「中部サステナ政策塾」の顧問を竹内さんと一緒にやってきている。ある日、竹内さんから、故郷の政治への情熱があると聞かされた。私は40年間、政治を職業としてきたが、こういうタイプの人が政治家になろうとするのは初めて。みんな郷土愛を持っている。首長は郷土愛と人生を一致できる。私は、23 歳の時に「市長になるぞ」との志を持った。選挙で出会った人は同志であり、友人だ。人間の社会は「共感」で成り立つ。困った人を助けたい、世の中で役立ちたいというのが人間だ。

英国のジェームス・ブライスは「地方自治は民主主義の原点。さらに、民主主義の最高の学校である。」とした。日本の民主主義は危機。政策立案する人を選ぶことに半分の人が参加していないのだ。先進国の中で「民主度が不完全な国」と位置付けられている。

政治はパワー。世の中変えていくパワー。誰を自治体の長にするかによって、変わる。このように、みんなで議論してパワーを持たなくてはだめです。竹内さんと一緒に議論してください。こういう討論会が大事。後援会の会報には、皆さんの意見や提案がたくさん出ている。会員からの素晴らしいメッセージも。

国家を支えるのは自治体。国家の底辺にあるのは自治体の考え方。大事なのは環境、自然環境。NHK の新日本風土記「風の中に土の匂いがする」このフレーズがたまらん。このふるさとの風、海、森、土が自治体の最大の武器、財産です。住んでいる人たちが故郷の独特の倫理観、価値観を作っていくんです。

どの組織、団体でも、リーダー次第で変わるという確信を持っている。リーダーは「新しさ、わかりやすさ、誠実さ」が条件とトルストイは言っているが、新しさが大事。いまの時代の新しい価値観は SDGs（国連が 2015 年に決めた持続可能な開発の目標）だ。これの一番の研究者、牽引車が竹内さん。こうした時代に、新しい風を吹かせるのが竹内さんだと思う。みなんもついていってください。美浜も変わるよ。

五木寛之の下山の思想を読んだ。登りは汗水たらすが、下りは鳥の声を聴いて楽しむ。下りは違う価値観が生まれますよって言っている。SDGs は下山の思想です。これが竹内さんの考え方にもつながっている。

1995 年、制度的には、地方分権が実現した。最大の改革だった。地方は中央とイコールパートナー。地方は自立した。しかし、国会議員に頼んで国から金（補助金）もらってくる、そういうことから抜けきらない。竹内さんは言っとる。地方は独自の財源をつくらなダメだ。竹内さんは、ここの町の独自の財源をひねり出せる。皆さんと一緒になってやらなダメですね。工夫すればできる。美浜町、人口は小さいかもしれない。小さいところの方がやりやすい。美浜は、みんなその気になれば、日本のモデルができる。全国がマネするようなモデルができる。僕は、犬山の市長になって、地域でこども育てようと、全国学力テストを止めた。これが、モデルになって、日本の教育界に波紋をもたらした。自分で言うのもなんですが、出来るんです。皆さんも、竹内さんについていってくださいよ。絶対、美浜から日本を変えていくことができる。美浜から、新しい時代の波を起こしてください。風を吹かす。お願いします。ありがとうございます。

■萩原喜之（株式会社三河の里コミュニティパワー専務取締役、元中部リサイクル運動市民の会代表理事など）

豊田市の山間地域、人口2万人の地域に会社をつくりました。地域が沈むというより、地域がなくなってしまいます。なくなることを止める会社を作りました。株式会社三河の里コミュニティパワーです。「My パワー」と呼んでいます。一応、電力会社になっていますが、実は、地域の疲弊を止める会社です。環境をよくすることは、個人の心を打たない。それよりも、もっと、暮らしが壊れている、地域が壊れている、ということを話した方がいい。くらし、最近はお金の話をするようになった。年間1％の経済を My パワーを使って取り戻したい。そして、年間1％の人口の流失を止める。1％、地域の暮らしをよくする。と言うことを考えています。なぜ、エネルギーから入ったのか。竹内さんの後援会の会報にも書いてありますが、外に流失しているお金で一番大きいのがエネルギー。美浜の家庭の光熱費だけで年間27億円の流出。豊田の山間地域の 2 万人の地域で24億。だいたい、同じぐらい。それを取り戻そうとする。

福島でも再エネブームに火がつきました。お金も電気も、全部東京を見ていました。地域に再エネはあるが、お金は落ちない、税金も東京に。竹内さんの案は、それを止める裏技でもある。

1980 年代から竹内さんを知っているが、周りからは「環境省のラストサムライ」と呼ばれていた。ラストサムライとは、過去を支えてきた大きな力のある人、変革期にサムライが必要だという意味で、竹内さんが必要だろう。われわれの暮らしが壊れるということを理解して政策をつくる。我々が変わるという視点から政策をつくっている。美浜町の皆さんにとっては、非常に大事な人なんです。

なぜ、我々は貧しくなっているか。昔は、地域の人たちの助け合いで暮らしを守ってきた。いまに時代は、お金で済ますようになってきている。働いたお金から税金を納めます。税収は減っている。仕事は増えているけど、行政の予算は減り、職員も減り、サービスは低下する。お金でサービスを買うという形で、私たちは暮らしを守ってきた。助け合いも小さくなり、行政も小さくなり。企業は格差が開く状態。企業のサービスも買えなくなる。これを何とか防がなくてはならない。そのため作った会社が「My パワー」です。

美浜町が沈まないためには、暮らしを維持するためには、外部への依存を断ち切ることです。足助での調査では、外に流出している資金の内訳をみると、エネルギーが 63.5%、食料が 8.6%。医療・介護・健康が 8.2%となっている。暮らしを壊さない政策を竹内さんは明確に持っている。これをお伝えしたかった。ここを理解している人は、いままで、なかなかいなかった。竹内さんに、沈みゆく美浜町を救って欲しい。

竹内さんのエネルギー構想（光熱費の比率が高い世帯の光熱費軽減策、その財源、地域経済効果）

◆家計支出に占める光熱費の比率が高い世帯に、住宅用太陽光パネル・蓄電池を無償貸与。パネル設置が困難な世帯には、地域電力小売・発電事業者の太陽光発電から電力供給（「オフサイト PPA」））。これによって、対象世帯の光熱費（県内世帯年平均 30 万円）は大幅に軽減。

◆住宅用太陽光パネル・蓄電池の無償貸付や地域電力小売・発電事業者による太陽光発電のための財源は、①町外の事業者が町内に設置した大型太陽光発電に発電量に応じて課す法定外目的税の税収、②国の脱炭素交付金。①の条例の制定・総務大臣同意（全国初）と②の交付金の獲得に挑戦。

◆半数の世帯に無償貸与などする場合、2.5 円/kWh の法定外目的税を 10 年間徴収＋国の交付金 50 億円。

◆町外に流出していた家庭の電気代・LPG 代などの光熱費（総額年間 27 億円）の一部は、住宅用太陽光パネル・蓄電池の無償貸与などによって町内に還流し、町内に残った額の 8 割が域内循環するとした場合、町内消費額は年々拡大し、10 年目には 10 億円の増加、10 年間の累積では 40 億円の増加。

飯尾歩（中日新聞論説委員）

竹内さんとは、環境つながり。首長の第一の役割は、地域という器に中身を詰め込むこと。環境を考えるということは、街づくりそのもの。選挙に出る人は、若さと行動力をアピールするが、必要なのは、行動力より「構想力」、「判断力」。首長になる人は、人生経験が豊かな人の方がいい。竹内さんは今月 69 歳になる。大学にもいて、中央官庁にもいた。収穫期、食べごろだと思いますよ。構想力、判断力の前提となるのは「聞く力」でしょう。つねおさんの構想には、いろいろな提案や意見が出されている。これらを聞いて、構想が進化している。

つねおさんの構想でいう「誰ひとりとり残さない」の意味の中には「全員参加だよ」、「だれひとり、参画しないではいられないような状況を創る」があるということだと思う。

つねおさんは、お金作るのがうまい。補助金、助成金とってくるのも上手。教授時代、EU（欧州連合）から 2.5 億円の事業をとってきたことも。だから、つねおの構想も実現可能性が高い。

地方創成担当大臣だった石破茂さんから話を聞いたことがあった。「よそからものを持ってくる時代は終わった。企業誘致、箱物作るといった時代は終わりました。」、「どんな街でも、固有の資源がある。それを伸ばしていくことが大事。まず、いまあるものを見直しましょう。」と。例えば、農業、食料安保の時代。美浜には豊かな資源があります。

まちづくりに当たっては「よそもの、ばかもの、わかもの」の力を集めてと言われる。つねおさんは、よそ者ではないが、長く離れていたからこそ、見えてくるものがある。河村名古屋市長は、壊すのがすごく上手。しかし、つくらない。つねおさんは、地味ですが、つくることが好き。聞く力を発揮して、いろんなものを作り出していただけると、美浜町も面白くなるんじゃないかと思う。隣の常滑市民としても、楽しみにしています。皆さ

んのアイデア、構想に期待します。
石田芳弘　選挙10回やっている。やっぱり、候補者の顔が見えないかんのです。相手さんは古い、形が。政党だとか、政治家の肩書ばっかり集めとる。今日（2 月 12 日）の中日新聞の朝刊一面にも書いてあったが、日本中で、既存の政治家の政治家臭さ離れが進んでいる。この陣営には、そういう匂いがありません。これが一番。がんばってね。
参加者　だれだれさんと知り合いだから、だれだれさんに頼まれたからという選挙が美浜町の選挙。地縁とか、商工会がみんなで応援するからとか、町会議員が応援しているからとか、そういったレベルの話で、本当の意味での竹内さんが訴えたいことがなかなか浸透しない。構想が広まっていかないのは、もったいない。本当の意味で、美浜町の将来を考えた選挙になるのか。心配になる。
石田芳弘　はじめての集まりに、これだけ集まったのは、すごい。集まった人が5人でも10人でも呼んでもらって、次々に集会をやってもらいたい。ここに来た人が、いかに、拡げるかです。竹内さんかつげば、美浜町が日本のモデルにできる。小さい町だからできる。

竹内つねお　プロフィール
1954 年 2 月 18 日、河和中学校の教員竹内美智雄と野間「かざりや」旅館の五女愛子との間の長男として北方に生まれた。河和小学校入学・河和中学校卒業、半田高校卒業、名古屋大学経済学部卒業。1977 年 4 月～2006 年 3 月 環境庁・環境省（地球温暖化対策課長など）。2006 年 4 月～2019 年 3 月 名古屋大学大学院環境学研究科教授。2019 年 4 月 名古屋大学名誉教授。2022 年 4 月北方区長（2023 年 3 月まで）。

「あまり知らない候補者だが、頼まれたから投票しておこう」という従来の組織票(地縁、知縁、血縁）による選挙行動を反省して、町民がここは自分の町であるという自覚を持ち、自分の町を愛し、その愛する町の経営に、きちんと町民が愛情をもって参加することが必要です。
そのためには、まず、投票によって町を動かそうとする自分の力を信じて、自分の投票によって政治家(議員・町長)が動いてくれることを信じるのです。
私たち、日本人の多くは、自分個人の幸せの追求に走って、自ら属する組織や国、一市町村の幸せを真剣に考えることを、やめてしまっています。今一度、この民主主義の原点に帰って、多くの町民が動けば、町政は劇的に変わることができるのです。今からでも遅くはないのです。美浜町を改革しましょう！

後援会長　山本敦則

■竹内つねお後援会に入会ください。

発行　竹内つねお後援会「持続可能な美浜町を構想する会」
470-2403 知多郡美浜町北方宮東 75
会長　山本敦則
電話　090-3931-0060
fax　　0569-82-0337
E-mail　tsuneo.kouenkai@gmail.com

こちらからも入会登録、提案・意見提出できます。

オフィシャルサイト　**http://t-tsuneo.jp**